

科目名	水生生物 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	アクアリウムの中でも一般的な鑑賞魚や水草を学び、熱帯魚や水草にとっての環境(光・酸素・二酸化炭素など)を覚える。癒しやインテリアとして需要が多くなっているアクアリウムの基本を覚える。							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・魚類の分類・種類・飼養方法・水質管理を覚える。 ・水生生物特有の病気についてを覚える。 ・日本産の観賞魚と海外産の観賞魚の歴史についてを覚える。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	基本的な魚類についての分類・特徴・雌雄判別・飼養管理等の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	ペットショップで扱われている人気魚類についての基本的知識を身に付け、顧客等に説明する場面で活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ペットショップで扱われている人気魚類の関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、ショップで扱われているメジャーな魚類について、正しい飼養管理・適正な環境作りができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	自己紹介・授業開始について アクアリウム	自己紹介、授業の必要性。概要・目的・目標についての説明・進め方 ペットとアクアリウム						
第2回	アクアリウムの語源	歴史・養魚から観賞魚へ 水槽飼育と自然とのサイクルについて						
第3回	魚の活動	生息環境と水 水合わせについて						
第4回	飼育方法、水槽について	水槽のサイクルとは、硬度と水温 飼育器具について 水槽・保温器具・照明器具・底床について						
第5回	観賞魚と食用魚	魚の外観と特徴・名称 体長と体高 観賞魚と食用魚の違い						
第6回	魚の臓器とその働き	皮膚と鱗 エラ 内臓器について						
第7回	魚の感覚器	色・形・距離・味覚・臭覚・振動・水流・水圧						
第8回	金魚について	金魚の種類と品種改良 飼育の歴史、日本での生産地						
第9回	錦鯉について	錦鯉の品種改良と歴史、選別と越冬 色揚げ・スビルリナ・鱗の優勢						
第10回	熱帯魚について(1) 魚の導入	コイの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 ナマズとドジョウの仲間 / 特徴・食性・繁殖・分布 魚の導入、水合わせについて						
第11回	熱帯魚について(2)	カラシン目について ピラニア・テトラ・カラシン メダカの仲間 卵胎生魚性転換						
第12回	熱帯魚について(3)	シクリッドの仲間について 繁殖・分布・特徴 アナバス・汽水魚・古代魚について 戦魚・肺魚・乾眼						
第13回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習				試験範囲説明		
第14回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験				単位認定試験		
第15回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点20%、演習点10点、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀 (S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○				10	良 (B):79点~70点
授業態度			○	◎			10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習			○		◎		10	
出席			○				10	
担当教員	細川 敏史			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/hosokawa/			

科目名	グルーミング基礎学		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	通年		
区分	必修		開設時期	通期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	グルーミングの必要性と目的、効果。グルーミングを行う上での犬体の構造、獣医学、衛生と消毒、各種専門用語を覚える。 ビジネスとして仕事をしううえで、グルーマーとしてお客様に満足していただける技術や心構えを身につける。 また、お客さまから信頼されるトリマーの知識を覚える。							
授業の一般目標	1. グルーマー・トリマーとしての技術と知識を習得し、心得を熟知する 2. グルーミングの必要性、目的、効果を覚える 3. 犬の取り扱いを覚える							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	犬・猫の基本的な手入れ方法について説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	犬・猫が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等に正しいグルーミング方法・道具の使用方法等の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の正しい取り扱い、美容用具の取扱いができ、美容(グルーミング)専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本な手入れ方法を身に付け、人と共存する上で正しく生体を取り扱うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級(トリマーコース)、3級(トレーナー・アドバイザーコース) 資格の取得							
授業計画(全体)	グルーミングに必要な基本的知識を修得し、正しく用具が取り扱え、犬・猫の取扱いがスムーズにできるようになると、その個体が健康的な生活できる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	授業開始について 道具の説明(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 道具の説明、取り扱い<スリッカー・ブラシ、ピン・ブラシ、獣毛ブラシ、ラバー・ブラシ、 コム>	Dog G P W B P40~45 グルーミング P32~34 ブラシ類、コム					
第2回	ブラッシング・コーミングの演習 リボン作りの説明、材料等について 道具の説明(2)	シート・ウィッグを使用してスリッカー・ブラシ、コムの練習、リボン付けの練習 道具の説明、取り扱い<爪切り、鉗子> カンシを綿棒代用の演習	Dog G P W B P19~20 シートウィッグ、ブラシ類、コム、 ラッピング用品、爪切り、 鉗子、綿花					
第3回	シザーの種類と構造 道具の説明(3)	はさみの保定方法(持ち方の練習)、ハサミの各部の名称、構造、種類 道具の説明、取り扱い<はさみ類>	Dog G P W B P30~35 P47~50、52 グルーミング P36~39 ミニバグミ					
第4回	道具の説明(4) リボン作り	道具の説明、取り扱い<クリッパー> クリッパーの作動確認、分解掃除方法演習 手作りリボンの制作方法を覚え、作れるようになる	Dog G P W B P38~39、40、 53~54 グルーミング P42 クリッパー本体セット、リボン作成用 品					
第5回	各部位の構造と手入れ	耳、爪、肛門囊、目、口腔内の手入れについて	Dog G P W B P18~23					
第6回	道具の説明(5)	その他に道具の説明、取り扱い<ナイフ類、トリミングテーブル、ドライヤー等、について	Dog G P W B P51 グルーミング P40~41					
第7回	グルーミングにおける衛生管理(1)	感染症とその予防 消毒薬①	Dog G P W B P274~279					
第8回	グルーミングにおける衛生管理(2)	消毒薬②	Dog G P W B P280~283					
第9回	グルーミングにおける衛生管理(3)	グルーミングで注意すべき感染症	Dog G P W B P284~286					
第10回	ショップにおける基礎知識と受付、対応について (1)	ペット・ショップとは 仕事の基本とマナー	Dog G P W B P296~301					
第11回	ショップにおける基礎知識と受付、対応について (2) こんな時どうする? 犬のアクシデント 信頼されるトリマー	ペット動物の販売・トリミング・ペット動物の預かり 事故を未然に防ぐために、トリミング前の異常と対処 アクシデントが起こった場合の対処 お客さまから信頼されるトリマーになるために必要なこと ドッグマナー習得と実践をする重要性、マナー AAV・JKCライセンス取得・更新・義務研修について	Dog G P W B P302~305					
第12回	各種トリマーライセンスの説明							
第14回	日常のケア	基本のお手入れ方法について						
第15回	犬体用語(1)	犬体各部の専門用語 頭部、耳、鼻						
第16回	犬体用語(2)	犬体各部の専門用語 目、吻、頸						
第17回	犬体用語(3)	犬体各部の専門用語 胸、腰尻、肢						
第18回	犬体用語(4)	犬体各部の専門用語 肢勢、尾						
第19回	犬体用語(5)	犬体各部の専門用語 被毛						
第20回	犬体用語(6)	犬体各部の専門用語 毛色						
第21回	犬体用語(7)	犬体各部の専門用語 歩様						
第22回	グルーミング用語(1)	グルーミングに対する専門用語①						
第23回	グルーミング用語(2)	グルーミングに対する専門用語②						
第24回	グルーミング用語(3)	グルーミングに対する専門用語③						
第25回	グルーミング用語(4)	グルーミングに対する専門用語④						
第26回	洗剤とケア製品についての知識(1)	洗剤の歴史と仕組み 犬の被毛について	Dog G P W B P288~291					
第27回	洗剤とケア製品についての知識(2)	犬用シャンプー・リンスについて リンス、コンディショナーの役割と効果	Dog G P W B P293~295					
第28回	試験範囲の復習	試験対策のポイント、復習		試験範囲説明				
第29回	振り返り授業・試験実施	受験前の振り返り、受験		単位認定試験				
第30回	試験問題の解答、解説	試験問題の答え合わせと解説		試験解説				
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美		実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/				

科目名	小動物飼育学 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	生態や習性の違う動物たちを飼育する時に注意すべき事項を学ぶ。 また、その動物についてを理解した上で、飼育動物の生活の質(QOL)の向上を考えることができるようになる。 一般的に飼育されている小動物たちの、適正とされる飼育ができるようになる。 主体性を持って、自らがその動物のことを考え、飼育環境改善を行うことができる。							
授業の一般目標	<ol style="list-style-type: none"> 本校での小動物飼育について学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 食性の違いを説明できる。 一般的に知られている愛玩動物(小動物)を適正な飼育方法で飼育できる。 <ul style="list-style-type: none"> ウサギ、ハムスター、モルモット、チンチラ フェレット、ハリネズミ 小鳥(セキセイインコ等) 飼育での注意点を知る。 学校飼育動物のQOLの向上を図る。 							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に本校で飼養している小動物についての特徴・食性・飼養方法・取り扱い方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	主に本校で飼養している小動物について、動物達が健康的に飼養管理できる基本的知識を身に付け、顧客等の正しく説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	小動物の正しい飼養方法・取り扱い方法を把握し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	小動物の飼養方法・取り扱い方法に基づき、正しい飼養環境作り、適正な飼養管理、取り扱いを行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し、本校で飼養している小動物達を健康に飼養管理ができる。 日常管理を行うとともに、何か問題点がないかの眼識を養い、観察力を付ける。								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	授業開始について 小動物飼育実習概論	授業の必要性・概要・目標・目的についての説明・進め方 授業の目的を知り、飼育に活かす				この授業の流れについての説明		
第2回	小動物(エキゾチックアニマル)とは?	小動物(エキゾチックアニマル)とはどのような動物をいかに説明できる						
第3回	本校における小動物飼育の流れ 飼育時の注意点	本校の小動物飼育の流れ・注意点を知り、それを守りながら飼育ができる						
第4回	ウサギの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のウサギの生態・習性を知り、本校におけるウサギの飼育方法を守って飼育ができる						
第5回	ハムスターの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハムスターの生態・習性を知り、本校におけるハムスターの飼育方法を守って飼育ができる						
第6回	モルモットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のモルモットの生態・習性を知り、本校におけるモルモットの飼育方法を守って飼育ができる						
第7回	チンチラの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のチンチラの生態・習性を知り、本校におけるチンチラの飼育方法を守って飼育ができる						
第8回	フェレットの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のフェレットの生態・習性を知り、本校におけるフェレットの飼育方法を守って飼育ができる						
第9回	ハリネズミの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のハリネズミの生態・習性を知り、本校におけるハリネズミの飼育方法を守って飼育ができる						
第10回	セキセイインコの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のセキセイインコの生態・習性を知り、本校におけるセキセイインコの飼育方法を守って飼育ができる						
第11回	ネコの飼育方法	飼育するにあたり、必要最低限のネコの生態・習性を知り、本校におけるネコの飼育方法を守って飼育ができる						
第12回	終生飼育を考える① 《グループワーク》	この授業を受けて、考えたこと感じたことをグループ単位で意見交換し、今後の動物飼育に活かすことができる						
第13回	終生飼育を考える② 《グループワーク》	前回の授業にて、グループ内でまとめた意見をクラス単位で発表し、今後の動物飼育に活かすことができる						
第14回	前期振り返り/前期末試験	前期振り返り後、前期末試験(筆記試験)(50分)				単位認定試験		
第15回	試験振り返り(解説)	試験問題解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					60	秀(S):100点~90点
小テスト	○	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良(B):79点~70点
授業態度			○	◎			20	可(D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	北村 昌樹			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/kitamura/			

科目名	家庭犬訓練Ⅰ		単位数	1	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	犬とのふれ合いから、基本となる家庭飼養で必要なしつけ方法を覚える。 犬のコントロール方法を覚える。							
授業の一般目標	病院、ショップで必要な基本的なしつけの実践ができる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	特になし							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	主に家庭犬に関する必要なしつけの必要性や概要説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	主に家庭犬が健康的に管理できる基本的なしつけの知識を身に付け、顧客等に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	主に家庭犬の日常飼養上で必要な基本的なしつけ学を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	主に家庭犬と人が共存する中で、スムーズな適正な飼養管理が行え、関係性を保つことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
家庭犬を飼養管理していく上で必要な基本的なしつけに関する知識を修得し、犬の習性・犬種による性格・扱い方を覚え、飼い主とその個体が快適な共存が保てるようにアドバイスができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	授業開始について 初対面のワンちゃんとの接し方	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 モデル犬との接し方、実習中の注意事項(事故予防)、授業・成績について 初めて会うにはいけないこと						
第2回	訓練からみた犬の起源 (1) ハウストレーニング	訓練からみた犬の起源(家畜化・共生・進化) リードの扱い方とカラーの選び方、 ケージへの出し入れ方法を覚える						
第3回	訓練からみた犬の起源 (2) アイコンタクト(1)	野生から家畜化へ Yesの使い方、アイコンタクト(ステップ1)を覚える						
第4回	訓練からみた犬の起源 (3) アイコンタクト(2)	家畜化・共生・進化について アイコンタクト(ステップ2, 3)を覚える						
第5回	犬の学習(1)	観察学習、古典的条件づけについて トイレトレーニング、視符の使い方						
第6回	犬の学習(2)	道具的条件づけについて① ルアートレーニング						
第7回	犬の学習(3)	道具的条件づけについて② リードの扱い方						
第8回	犬の感覚(1)	嗅覚について ウェイトの練習						
第9回	犬の感覚(2)	視覚について スタンド・ウェイトの練習						
第10回	犬の感覚(3)	聴覚・味覚について ドアの出入り練習						
第11回	犬の感覚(4)	触覚について カムの練習						
第12回	犬の先天的な能力(1)	ボディ・ランゲージについて 犬の歩様について						
第13回	犬の先天的な能力(2)	カーミングシグナルについて 復習				試験範囲説明		
第14回	復習、試験実施	復習、試験実施				単位認定試験		
第15回	授業を終えて	試験の解説				試験解説		
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		60	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○						20	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		10	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習							-	
出席			○				10	
担当教員	小泉 秀明			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/koizumi/			

科目名	グルーミング I		単位数	6	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	基本的なグルーミング方法を覚え、技術を身に付ける。 トリマーコースは、後期の美容 I 実習授業へ確実なグルーミングが行えるようになる。 トレーナー&アドバイザーコースは、2年次に受験予定であるAAVサリントリマー3級資格取得試験を意識した各犬種のグルーミングができる。							
授業の一般目標	基本グルーミング・ベーシッククリッピングに関する技術を修得し、目標時間(2時間～2時間30分)内に仕上げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング(手入れ)方法と簡単なベーシック・クリッピング方法の説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	人と共存する上で、犬・猫が健康的で快適な生活ができるように必要な基本の手入れ方法の必要性について、顧客等に説明ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	犬・猫の基本グルーミング方法・ベーシッククリッピング技術を理解し、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	基本的な技術を身に付け、正しく生体を取り扱うことができ、特にトリマーコース選択学生は高度なグルーミング技術やトリミング技術をへ繋げる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級(トリマーコース)、3級(トレーナー・アドバイザーコース) 資格の取得							
授業計画(全体)	基本的なグルーミング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるように、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1回	授業開始について 自己紹介 美容用具の配布・確認 美容実習室の設備・備品について	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 自己紹介(氏名・志望選択コース・飼養動物種のリサーチ) 美容用具の配布と種類の確認 美容実習室内の設備・備品・シャンプー・リンス剤の希釈等についての注意事項						
第2回	美容実習授業の一日の流れ、美容実習授業時の注意点	実習時の服装・態度・準備物・注意事項を覚え、実習授業時の一日の流れを覚える						
第3回	ドッグ・ショーについて、研修の事前学習	JKCドッグ・ショーの進行方法・審査方法、見学研修前に事前学習、トナメント方式、年齢別クラス区分、マナー等、美容実習室内の設備使用について						
第4回	モデル・グルーミング、実技 短毛種(1)	ベーシック実習のモデルグルーミング、チワワ(4頭…2教室に分かれる)教員仕上げ、チワワ(スムース・ヘアード)、学生2名で1頭仕上げ						
第5回	実技 中毛種(1)	チワワ(ロング・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ						
第6回	実技 その他の短毛種(1)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(3頭)						
第7回	実技 短毛種(2)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(3頭)						
第8回	実技 中毛種(2)	チワワ(ロング・ヘアード)、ダックスフンド(ロング・ヘアード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第9回	実技 その他の中毛種(1)	ペキニーズ、狝、キャバリア・キング・チャールズ・スパニエル等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第10回	実技 その他の中毛種(1) 大型犬	フラット・コーテッド・レトリバー、ゴールデン・レトリバー、シェットランド・シープドッグ、ブリュッセル・グリフォン等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(5頭)						
第11回	実技 短毛種(3)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(8頭)						
第12回	実技 中毛種(3)	チワワ(ロング・ヘアード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)						
第13回	実技 その他の短毛種(2)	柴、ジャック・ラッセル・テリア、ブルドッグ等:学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(8頭)	実技テスト(1)					
第14回	実技 短毛種(4)	チワワ(スムース・ヘアード) 学生2名で1頭仕上げ:学生1名で1頭仕上げ(10頭)	実技テスト(2)					
第15回	実技 中毛種(4)	チワワ(ロング・ヘアード):学生2名で1頭仕上げ、学生1名で1頭仕上げ(10頭)	実技テスト(3)					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点、演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点～90点
小テスト							-	優 (A):89点～80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点～70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点～60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.vic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	総合学習 I		単位数	1	科目コード			
授業形態	校外実習		対象学生	1年生	開設期	通期		
区分	必修		開設時期	前後/後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	普段、学内では体験できない事を、外部の施設・イベントに参加をする。 外部の施設・イベントに参加をし、専門職者としての技術と人間力を高める。							
授業の一般目標	① 普段扱わない生き物の管理を行う。 ② 実社会に触れることによって、学習意欲が向上する。 ③ 集団行動を身につける。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	適宜テキストを配布							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	研修・イベント等を通して、校内では学習できない知識・経験を得る。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	普段授業で取り組めない各分野について学び、自分の経験値を高める。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	動物に関する他分野教育の関心を広げ、興味・問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点								
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
本校での授業内容にはないことを研修やイベントを通して、実際に体験することで観察力・探求心を付ける。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容				備考		
第1回	宿泊体験研修	動物園・水族館等の施設で普段扱うことが出来ない生き物を対象に実習を行う						
第2回								
第3回								
第4回								
第5回	校外学習	JKCドックショー、動物感謝デー、盲導犬センター、インナーナショナルドックショー等のイベントに参加、または研修を行い、学内では体験できない事を行う						
第6回								
第7回								
第8回								
成績評価方法								
出席100%が前提となる 出席時間不足のための補習は行わず、欠席・時間不足者については振替登校日に課題等をさせる。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験							-	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート	○	○	◎	◎			40	良 (B):79点~70点
授業態度		○	◎	◎			30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可 (E):59点以下
演習	○		◎	◎			20	
出席			○				10	
担当教員	井田 亜由美、山極 夏希			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/ida/			

科目名	美容 I	単位数	6	科目コード				
授業形態	実習	対象学生	1年生	開設期	半期			
区分	選択必修(トリマー分野)	開設時期	後期	教員実務経験対象	有			
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング(カット技術・整毛技術)方法を覚え、技術方法を身に付ける。							
授業の一般目標	各犬種の基本グルーミング・ベーシック・クリッピング・カットイング技術を修得し、目標時間内に仕上げる。 JKC・トリマーC級ライセンス、AAV・サロントリマー1級資格の取得へ繋げる。							
受講条件	特になし							
事前学習について (テキスト・参考書等)	最新ドッググルーミングマニュアル、Dog Groomers Professional Work Book、最新犬種図鑑							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、技術方法の実践ができる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、各分野について活用することができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、関心を広げ、専門分野へ繋げていくことができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	各犬種の基本的なグルーミング・ベーシック・カットイング方法を覚え、その個体が健康的で適正な飼養管理を行うことができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	全国動物専門学校協会 サロン・トリマー 1級 及び JKCTトリマーC級ライセンス資格の取得							
授業計画(全体)								
基本的なグルーミング・カットイング知識・技術を修得し、対象となるその個体が健康的に人と共存生活ができるようにし、必要に応じて顧客にアドバイス・指導ができる。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容			備 考			
第1回	授業開始について 実技 長毛種カット(1)	授業の必要性・概要・目的・目標についての説明・進め方 マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)						
第2回	実技 長毛種カット(2)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(5頭)						
第3回	実技 長毛種カット(3)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭)						
第4回	実技 長毛種カット(4)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(8頭) レスンドッグ(シーズー) フラッシング						
第5回	実技 長毛種カット(5)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) レスンドッグ(シーズー) サマーカット①						
第6回	実技 長毛種カット(6)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭) レスンドッグ(シーズー) サマーカット②						
第7回	実技 長毛種カット(7)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(10頭)						
第8回	実技 長毛種カット(8)	紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット 骨組み>						
第9回	実技 長毛種カット(9)	紙粘土制作 <マルチーズ サマーカット>						
第10回	実技 長毛種カット(10)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第11回	実技 長毛種カット(11)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第12回	実技 長毛種カット(12)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭)						
第13回	実技 長毛種カット(13)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)			レスンドッグ 仕上げテスト			
第14回	実技 長毛種カット(14)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)			レスンドッグ 仕上げテスト			
第15回	実技 長毛種カット(15)	マルチーズ・シーズー等(サマーカット)、ブードル種 学生2名で1頭仕上げ(15頭) レスンドッグ 仕上げテスト(18名)			レスンドッグ 仕上げテスト			
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点・演習点60%、提出物&授業態度点30%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験		○		◎	◎		40	秀 (S):100点~90点
小テスト							-	優 (A):89点~80点
宿題授業外レポート							-	良 (B):79点~70点
授業態度	○	○	○	◎	◎		30	可 (D):69点~60点
発表・作品							-	不可(E):59点以下
演習		○		◎	◎		20	
出席			○				10	
担当教員	五郎畑 通与 + トリマー指導教員			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-pet.ac.jp/voice/gorohata/			